
第1回 下呂市廃棄物減量等推進審議会 議事録

(概要版)

【日時】 令和3年12月7日 火曜日 10時から12時15分

【場所】 下呂ふれあいセンター 3階会議室

- 【次第】
- 1 開会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 市長あいさつ
 - 4 委員自己紹介
 - 5 会長・会長職務代理者の選任
 - 6 諮問
 - 7 審議内容の公開について
 - 8 協議事項
 - 9 その他
 - 10 閉会

【出席者】

西 博志 ☆会長

今井 久仁子

青木 幸美 ☆会長職務代理者

田口 茂博

守富 寛 ☆学識経験者

小林 美彦

【欠席者】

福村 晃一

川口 恵理子

山口 隆士

中村 好一

中川 好美

松岡 守

佐伯 露子

石原 眞紀子

米野 英一

【事務局】

山内 登（下呂市長）、小畑 一郎（環境部長）、波多野 一樹（環境課長）、

中川 直哉（環境課 課長補佐）、熊崎 泰士（環境課 主査）

【議事等の概要】

1. 開会

略

2. 委嘱状交付

任期 令和3年12月7日から令和5年12月6日までの2年間

3. 市長あいさつ

略

4. 委員自己紹介

略

5. 会長・会長職務代理者の選任

会長は、委員の互選により西 博志 氏を選出

会長職務代理者は、会長の任命により青木 幸美 氏を選出

6. 諮問

略

7. 審議内容の公開について

会議は、非公開とする。

会議資料は、市ホームページ上で公開とする。

議事録は、要約したものを市ホームページ上で公開とする。

委員は全て「委員」、事務局員は「事務局」と記す。(出欠者名はこの限りでない。)

議事録署名者は2名とし、会議ごとに選出する。

8. 協議事項

資料1. ～3. について

委員：民間によるエコステーションの設置状況及び回収量を把握しているか。簡単に利用できる民間エコステーションの利用率は低いと思われ、その回収量によって今後の状況が変わってくる。

事務局：市内では民間業者によるエコステーションは設置されておらず、一部の品目について店頭回収が行われているが、いずれも回収量等について統計に反映ができていない。今後それらの回収量を把握する方法を検討したい。

委員：他市で民間のエコステーションをよく目にするが、なぜ下呂市には無いのか疑問に思っていた。今後の審議における一課題でもある。

委員：この審議会では、事業所から出るごみについては検討しなくてもよいか。

事務局：今回の審議会においては、家庭ごみに関することを中心にご審議いただきたい。

委員：この審議会で審議するのは資料中の「審議会で検討いただきたい事項」でよいか。

冒頭で「委員の任期中に決着を付けたい」とお話があったが、任期中に答申を行うという理解でよいか。

事務局：その通り。

委員：予定されている5回程度の会議の回数は任期中の回数か、1年間の回数か。

事務局：会議の回数について特に制限はない。スケジュール感のイメージとして、事務局案である令和5年度予算に反映させるためには、来年秋ごろまでに答申内容がまとまればと思う。

委員：来年秋まで1年間もなく、今後少なくとも隔月で会議を行うことになると思う。次の会議までの期間が長いと記憶や意識も途切れてしまう。事務局には、委員に会議に対する簡単なアンケートを行うなど、意識を持続できる工夫をしていただき、答申へと繋がる審議会になればと思う。

委員：必要に応じワーキンググループを設置して集中的に審議したり、アンケート等で委員の意見を集約するのは効果的。事務局に店頭回収事業者、ごみ処理業者等へのヒアリングを行っていただき、情報が集まったら委員が集まって意見を聞くなど臨機応変に進めるのがいい。

資料5. ～8. について

委員：資料中、循環型社会形成推進交付金はどのように活用されているか。

事務局：施設整備等ハード事業に活用している。

委員：生ごみの問題が一番多いと思うので、たい肥化装置の導入等についても盛り込めたらと思う。

委員：「リニューアブル」は、今後の施策として非常に重要であり、例えば今までごみだったものを材料として利用する取り組みが挙げられる。産業育成と関わってくるため、市民の力を拾い集めて環境に貢献していくという団体がないとなかなか進まない。また、市内や周辺地域にそういったことに一生懸命取り組んでくれる業者等がないとなかなか進まない。

委員：以前テレビ番組で間伐材を燃料に火力発電している事例があり、かなりの地域の電力を賄っていた。地域性もあると思うが、そういったところにも繋げられる。残飯から家畜飼料を作っているところも現実的にあり、下呂は飲食店や旅館があるので、うってつけの地域かと思う。皆さんの意見集約によって3Rに結び付けていければと思う。

資料9. ～11. について

委員：資料に「生ごみ、廃食用油のバイオマス化は実施しておりません」とあるが、この部分も見直しが必要と思う。残飯処理の設備もいろんなものがあり、昨年テレビ番組で紹介されていた設備

は、コンビニ弁当等を投入すると粉碎された食品とプラスチックごみに分離し、それぞれリサイクルできるというものだった。様々な自治体からの問い合わせがあり、既に導入しているところもあるそうだ。先立って手掛けている自治体は多々あるので、出来ないのではなく、やらないのが実際のところではないかと思う。

委員：下呂市一般廃棄物処理基本計画に再資源化の具体策があるが、市の状況は何ら変わっていない印象がある。行政の生ごみ減量化に対する基本的役割として、「家庭用生ごみたい肥化装置に対する補助金制度の創設」、また、市民の役割として「生ごみ排出時の水切り徹底や、再資源化できるごみの分別徹底」が謳われている。この審議会で話し合いながら、出来ることをやっていければと思う。

委員：本日の審議会は、これからの審議の流れや、現状の問題等の情報提供が中心だった。やれることはやらなくてはならないし、今までやっていなかったことは、それが何故かを追及していく必要もあると思う。短期間でも中身の濃い審議会としたい。

事務局：次回以降は審議に入っていただくこととなる。次回の開催日程について調整したい。

委員：委員の意見を聞くためにも、現状の問題等についての簡単なアンケートを行っていただきたい。次回会議ではそれを参考にして審議するのがいい。

事務局：本日は、頭出しということで、諮問事項と市の現状についてお話しましたが、時間上十分な説明ができなかった。諮問事項として3つの事項の審議をお願いしているが、審議の順番として「②資源ごみの回収方法について」、次いで新たな資源ごみ回収という切り口で「①容器包装廃棄物の分別・資源化について」、最後にトータルとして「③ごみ手数料について」と進めていただけたらスムーズかと思う。次回は、資源ごみ回収方法に焦点を当てて進めたいので、資料で希望されるものがあれば申し付けいただきたい。また、日程については委員の方々の都合を最優先するため、改めて日程調整を行う。

委員：会議までの時間的ロスがあるため、各自治会、地域で資源ごみの収集でどんなことに迷っているか、考えているかアンケートを取るなど事前に情報収集していただきたい。集約した結果について委員で協議するものとしたい。

委員：資源ごみの回収について、量的・率的な水準値はあるのか。下呂市の資源ごみ回収が他自治体や、そういった基準と比べ十分でないのかどうかで違った議論になると思う。

事務局：県内自治体の資源化率を比較すると、下呂市は低い順位にいる。この点を含め、皆さんへの説明が必要な部分を次回改めて紹介させていただく。

委員：減量化問題もそうだが、いかに事業者への委託料を軽減するかも一つの議題となってくる。手を煩わせないような回収方法を事業者とも相談しながら進めていかなければいけないと思う。

委員：日程については、事務局での調整をお願いしたい。

事務局：1月末から2月を目安に日程調整させていただく予定。それより早く開催できる様であれば前倒ししたい。まずは、アンケートを作成して皆さんに送付するので回答をお願いしたい。

委員：統計データ上は、下呂市は他自治体に比べ資源化率が低いが、一概には良し悪しを述べられない。資源化率は重量で計算するため、重いものをリサイクルすれば高くなる一方、軽い物だけをリサイクルしていると頑張っても数値に反映されにくい。また、数値把握できていない民間資源回収の量について分析して反映させていく必要はあるかもしれない。

委員：次回以降は必ず一人一回は発言することと、その都度意見まとめの時間を設けていただきたい。委員の心づもりのためにも、事前段階でのアンケートでの意見聴取は必要。自治会、ボランティア団体等それぞれの立場での課題を見つけられれば前進に繋がりやすい。次の議論の叩き台になるような、委員の皆さんが難しく考え込まず気持ちよく答えられるようなアンケートを作成したい。

議事録署名

小林美尋 

議事録署名

青木幸美 